

日本教育社会学会 第5回若手研究セミナー 開催のお知らせ

2017年1月7日

日本教育社会学会教育部長 清水睦美

日本教育社会学会では、教育社会学研究の研鑽を積んでいる若手研究者を対象に、教育社会学の最新の知識の習得と参加者相互の新たなネットワークの構築を図ることを目的としたセミナーを、下記の要領で開催します。

- (1) 主 催 日本教育社会学会
- (2) 日 時 平成29年3月25日(土)13時～3月26日(日)15時40分
- (3) 場 所 大阪大学人間科学部
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番2号
(大阪モノレール彩都線 阪大病院前駅下車 徒歩約10分)
- (4) 参加対象 大学院生または若手研究者で教育社会学に関心のある方(非学会員も可)
- (5) 定 員 50名(定員になり次第、締め切り)
- (6) 参加費 1,500円(当日支払い)
参加費は、資料冊子の印刷費及び通信費等に充当します。交通費・宿泊費につきましては、各自でご準備ください。
1日目終了後、懇親会を開催します。参加希望者は3,500円を別途ご用意下さい。
- (7) プログラム 別紙1の通り
- (8) 申込方法 参加をご希望の方は、必要事項を記入の上、申し込み期間内に、下記の参加申込先までEメールにてお申し込み下さい。
- 〈必要事項〉 Eメールの件名を「日本教育社会学会若手研究セミナー申し込み」とし、本文に、①氏名、②所属(大学院生は学年も)、③学会員か非会員かの別、④連絡先(電話番号とメールアドレス)、⑤研究テーマ、⑥参加を希望するワークショップの番号、⑦懇親会参加の有無を記入して下さい。
- 〈受付期間〉 平成29年1月16日(月)～2月28日(火)
- 〈事前準備〉 参加される方は、別紙2に示した事前準備をお願いします。
- (9) 参加申込・問い合わせ・事前準備ワークシート送信先
【日本教育社会学会第5回若手研究セミナー】(担当:坂口・知念)
E-Mail: jses.seminar2016+2017@gmail.com

(別紙1) 第5回若手研究セミナー プログラム

日	時 間	内 容
3 月 25 日	12:30 ~ 13:00	受 付
	13:00 ~ 13:50	開会挨拶 清水睦美 教育部長 参加者自己紹介、ワークショップ準備
	13:50 ~ 15:30	講演1 お茶の水女子大学名誉教授 箕浦康子 「子どもと文化：私の研究史 40年」
	15:30 ~ 15:50	休 憩
	15:50 ~ 17:30	講演2 大阪大学大学院教授 志水宏吉 「若手教育社会学者へのエール ～研究と実践との関係性をめぐって～」
	18:00 ~ 20:00	懇親会
3 月 26 日	10:00 ~ 11:30	<u>ワークショップ—研究力の向上を目指して</u> 3つのテーマ別グループに分かれてグループワーク 1 量的研究を成功させるには (ファシリテーター 荒牧 草平：日本女子大学准教授) 2 研究テーマを展開する (ファシリテーター 片山 悠樹：愛知教育大学講師) 3 研究を国際発信する (ファシリテーター 松岡 亮二：早稲田大学高等研究所助教)
	11:30 ~ 12:40	昼 食
	12:40 ~ 14:10	ワークショップの続き
	14:10 ~ 14:30	休憩
	14:30 ~ 15:20	全体での振り返り
	15:20 ~ 15:40	閉会式 参加者アンケート

※参加者事前準備

別紙2「第5回若手研究セミナー ワorkshop一覧」の「事前準備」欄の指示に従い、参加申し込み後に別途お送りするワークシートに、必要事項を記入の上、平成29年3月10日(金)までに【日本教育社会学会第5回若手研究セミナー】(jses.seminar2016+2017@gmail.com)までお送り下さい。

(別紙2) 第5回若手研究セミナー ワークショップ一覧

ワークショップ1	テーマ	量的研究を成功させるには
	ファシリテーター	荒牧草平
	内容	どうすれば意義のある研究を行えるのでしょうか。このワークショップでは、計量研究に固有の側面と、計量研究に限らず必要とされる側面の双方について、特に「研究・分析課題」「理論」「研究方法」「結果の解釈」相互の妥当性や整合性という観点に着目して、研究(論文)を成功させる条件について考えてみたいと思います。学術誌に、意義のある計量論文が掲載される一助となれば幸いです。
事前準備	①何を明らかにしたいのか、②理論仮説とその根拠、③調査・分析方法(調査の対象・方法・作業仮説)、④(すでに結果が出ている場合)主な結果とその解釈、⑤困っていること、について教えてください。 (研究構想段階の方は、現時点で計画・予定していることで結構です)。	
ワークショップ2	テーマ	研究テーマを展開する
	ファシリテーター	片山 悠樹
	内容	複雑な教育現象を理解するため、多様な研究テーマが設定されていますが、相互に関連していないわけではありません。部分的であれ関連しており、何らかの共通項がみられることもあります。このワークショップでは、参加者の現在の研究テーマを問いなおしつつ、他の研究テーマを参考にすることで、テーマの幅を広げることを目的とします。
事前準備	①現在の研究テーマ(テーマ1)の学術論文を読み、共通の前提や関心を数点挙げてください。②テーマ1で引用される主要論文が、他の研究テーマ(テーマ2)でも言及されているかを確認してください。そして、そのテーマは何かを挙げてください。③テーマ1とテーマ2で共通する部分と異なる部分を挙げてください。また、可能であれば、テーマ1とテーマ2を比較検討したうえで、仮説を設定してみてください(妄想でも構いません)。④研究テーマの幅を広げるうえでの悩みなどを書いてください。	
ワークショップ3	テーマ	研究を国際発信する
	ファシリテーター	松岡 亮二
	内容	海外における学会発表や国際学術誌への論文投稿など研究を国際発信する際、日本語の論文をそのまま訳しても聴衆・読み手にはなかなか伝わりません。国際学会での発表、国際学術誌への投稿について概観した上で、参加者の研究課題や対象に合わせてどのような研究の理由付けや構成が望ましいのか議論します。なお、まだ何を発信するかも決めていないけれど興味があるような方も歓迎します。
事前準備	研究国際発信についての経験と今後の計画の概要、それに国際発信したい・する予定の研究テーマ・課題を書き出してください(日本語)。その上で、研究の理由付け・意義を含む簡潔な要旨 2 種類——日本語論文版と英字論文版——の準備をお願いします(英字論文版も日本語可)。言語によって想定読者が大きく変わるので、自然とその書きだしや強調する学術的意義、構成などが異なるかと思います。本テーマに関する意見や悩みなども歓迎します。	

※事前準備については、参加申込み後、別途お送りするワークシートに、希望するワークショップで指示された内容を書いてご準備ください。